

（仮称）新三宮図書館整備検討会（第3回）

日時：平成30年9月12日（水）11時～13時

場所：中央図書館1号館4階 研究室（1）、（2）

- 1 開会、挨拶
- 2 委員紹介
- 3 報告
雲井通5丁目地区再整備にかかる事業協力者の決定について
- 4 協議
 - （1）第2回検討会の振り返り
 - （2）検討会のまとめ（案）について
 - （3）コンセプト・基本方針（案）について
- 5 閉会

《配付資料》

- （資料1）検討会委員名簿
- （資料2）検討会開催要綱
- （資料3）第2回検討会キーワード整理（事前送付）
- （資料4）検討会のまとめ（案）
- （資料5）コンセプト・基本方針（案）

（参考）雲井通5丁目地区再整備にかかる事業協力者の優先交渉権及び次点交渉権者の決定について

(仮称) 新三宮図書館整備検討会委員名簿 (順不同)

氏名	所属
小林 圭子 こばやし けいこ	ボランティアグループもものたね
佐藤 翔 さとうしょう	同志社大学図書館司書課程 准教授
中井 孝幸 なかい たかゆき	愛知工業大学工学部建築学科 教授
村上 豪英 むらかみ たけひで	神戸モトマチ大学 代表
吉富 志津代 よしとみ しずよ	名古屋外国語大学 教授

(仮称) 新三宮図書館整備検討会開催要綱

平成 30 年 7 月 12 日
神戸市教育長決定

(目的)

第 1 条 移転整備を行う三宮図書館に関するコンセプトや基本的な方針、機能等について、有識者等から幅広く意見を求めることを目的として「(仮称) 新三宮図書館整備検討会」(以下「検討会」という)を開催する。

(委員)

- 第 2 条 検討会に参加する委員は学識経験者をはじめ有識者、図書館でボランティア活動を行う者、その他教育長が適当と認める者のうちから、教育長が委嘱する。
- 2 前項の規定により委嘱する委員の人数は 10 名以内とする
 - 3 委員の任期は平成 31 年 3 月 31 日までとする。

(会長の指名等)

- 第 3 条 教育長は、委員の中から会長を指名する。
- 2 会長は、会の進行をつかさどる
 - 3 教育長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、前項の職務を代行するものを指名する。

(検討会の公開)

- 第 4 条 検討会はこれを公開する。ただし、次のいずれかに該当する場合で、教育長が公開しないと決めたときは、この限りでない。
- (1) 神戸市情報公開条例(平成 13 年 7 月条例 29 号)第 10 条各号に該当すると認められる情報について意見交換を行う場合
 - (2) 検討会を公開することにより公正かつ円滑な検討会の進行が著しく損なわれると認められる場合。

(施行細目の委任)

第 5 条 この要綱に定めるもののほか、検討会の開催に必要な事項は教育委員会中央図書館長が定める。

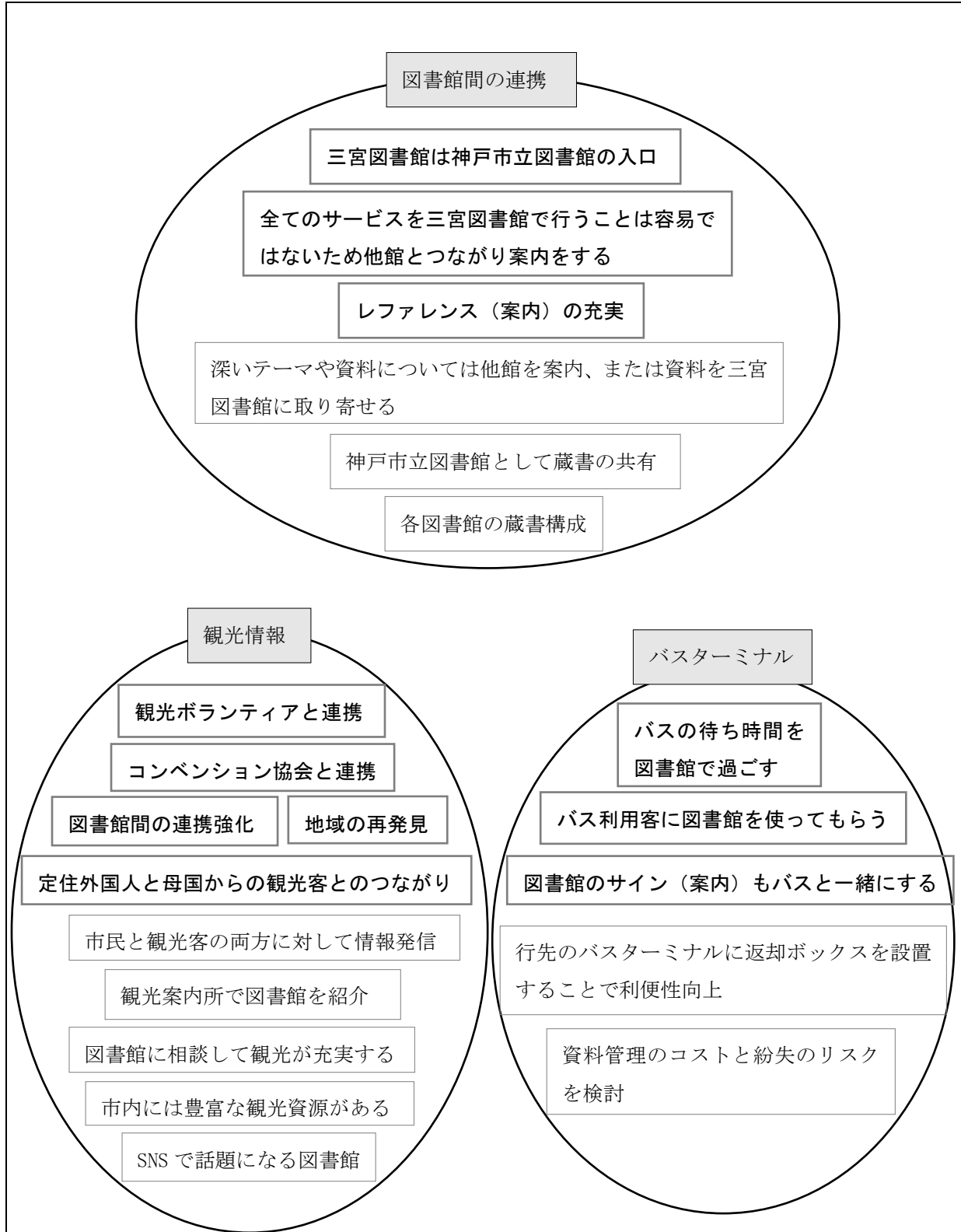
附則(平成 30 年 7 月 12 日決裁)

この要綱は、平成 30 年 7 月 13 日より施行する

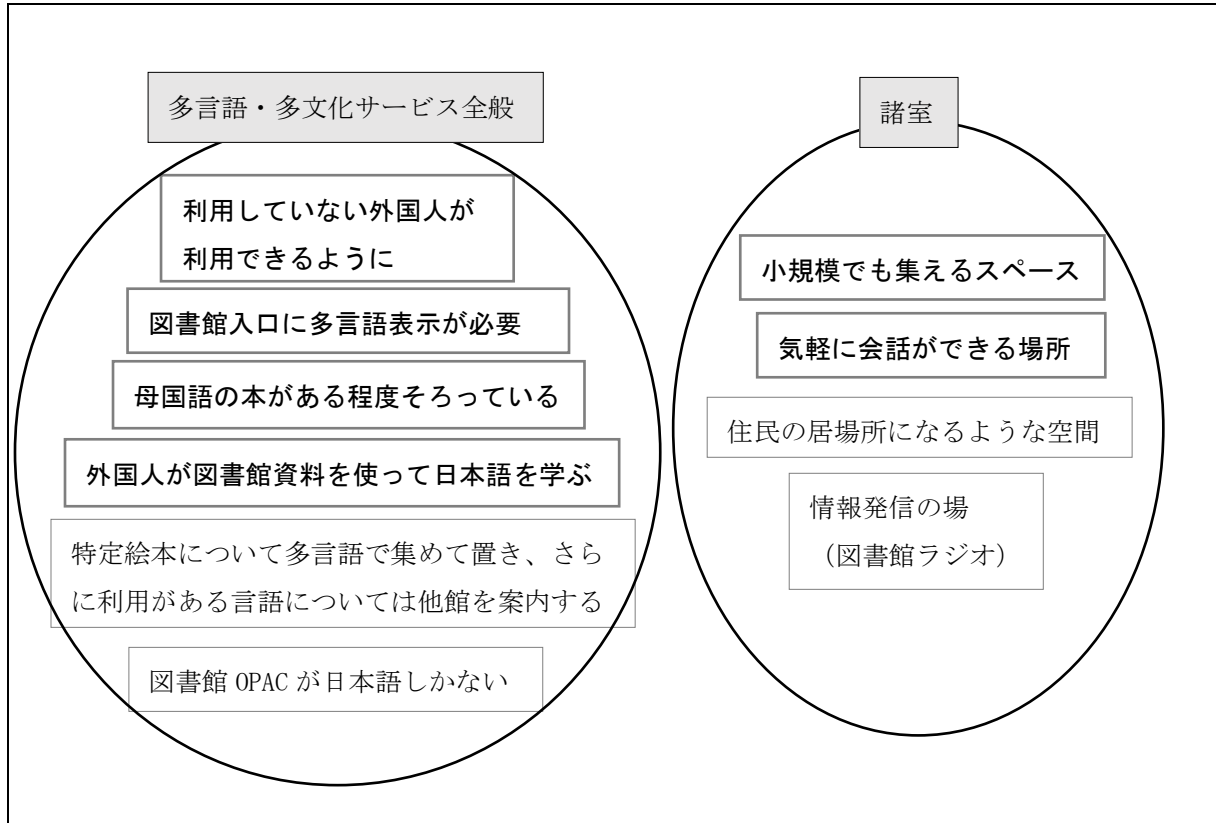
第2回検討会 キーワード整理

凡例： **ゴシック** 重要度の高いと考えられるもの

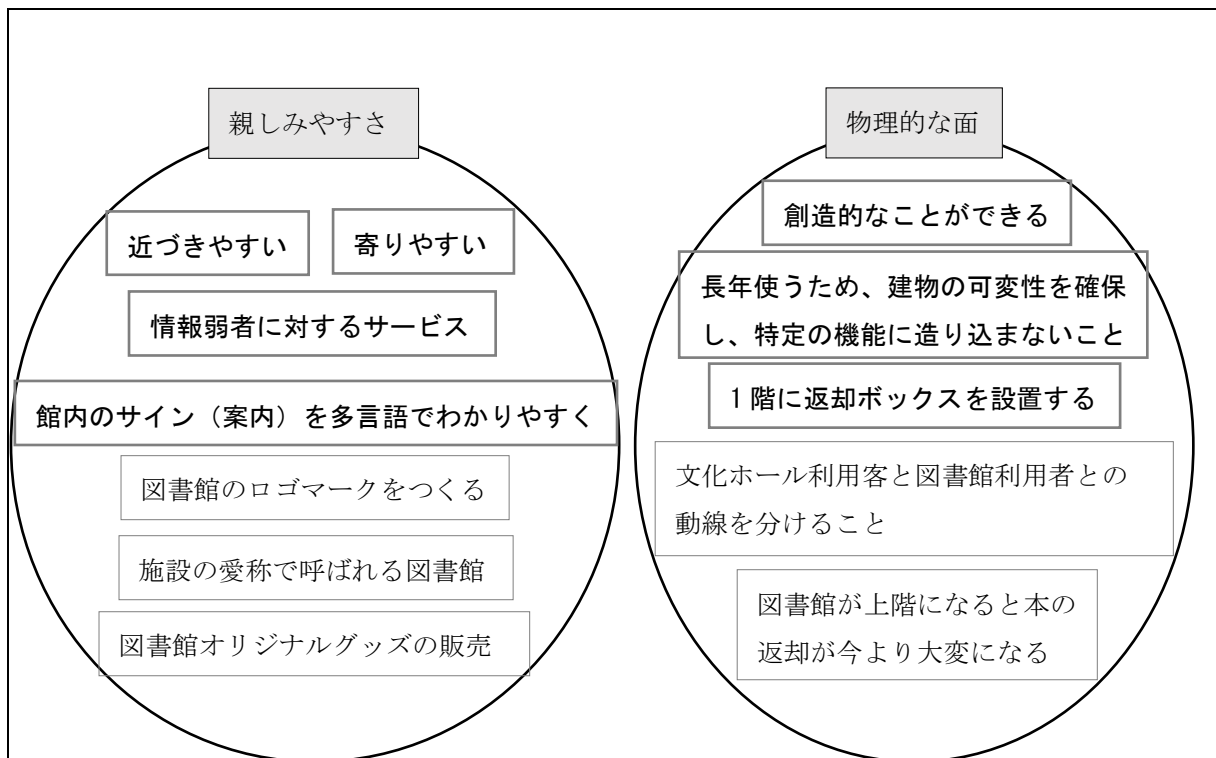
1. つながる



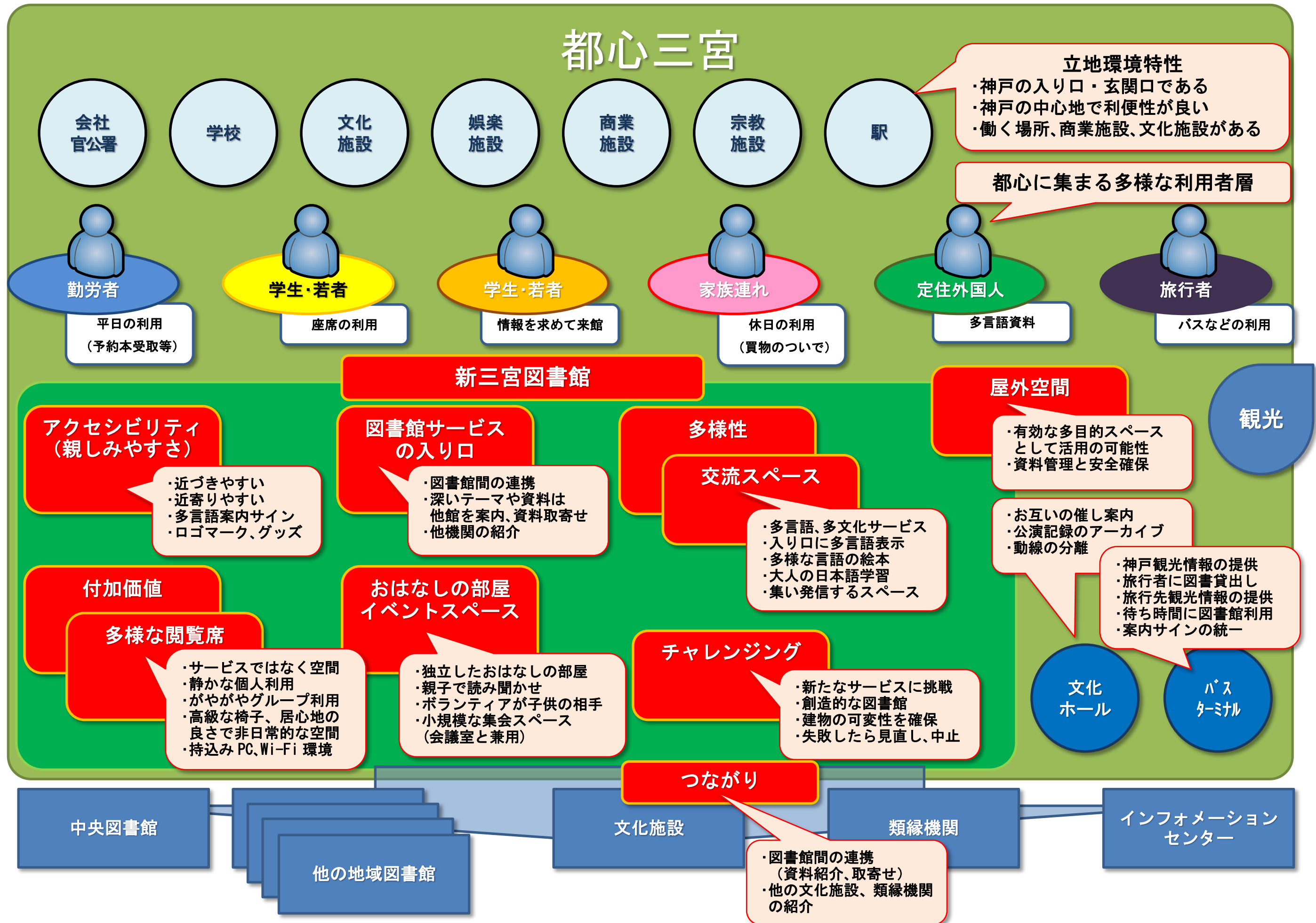
2. 多様性 (ダイバーシティ)



3. アクセシビリティ



(仮称) 新三宮図書館整備検討会のまとめ



(仮称) 新三宮図書館整備検討会協議のまとめ

1. 新三宮図書館の立地と利用者層

(1) 立地環境特性

- ・神戸の入り口・玄関口
- ・神戸の中心地で利便性が良い
- ・働く場所、商業施設、文化施設がある

(2) 都心に集まる多様な利用者層

- ・勤労者（平日に予約本の受取などで利用）
- ・学生・若者（座席の利用、情報を求めて来館）
- ・家族連れ（休日に買物のついでに利用）
- ・定住外国人（多言語資料の提供で新たな利用）
- ・旅行者（バスなどで神戸へ、あるいは神戸からの旅行者）

2. 新三宮図書館整備に必要な視点

(1) アクセシビリティ（親しみやすさ）

- ・近づきやすい、近寄りやすい図書館
- ・分かりやすいサインやロゴマークで親しみやすさ

(2) 図書館サービスの入り口

- ・多様な利用者へ図書館サービスの案内
- ・深いテーマに関しては他の図書館、他機関の案内

(3) 多様性、交流スペース

- ・多言語、多文化サービスの案内
- ・集い、発信するスペース

(4) 付加価値、多様な閲覧席

- ・来館を促す付加価値
- ・多様なニーズに対応した閲覧席

(5) おはなしの部屋、イベントスペース

- ・独立したおはなしの部屋
- ・自前で小規模な集会（イベント）を開催できるスペースの確保

(6) チャレンジング

- ・新たなサービスに挑戦する
- ・施設面でも建物の可変性を確保

(7) 屋外空間

- ・有効な多目的スペースとして活用の可能性

(8) つながり

- ・図書館間の連携
- ・他施設、他機関の紹介

(9) 文化ホール、バスターミナルとの連携

- ・お互いの催し物案内、公演記録のアーカイブ
- ・動線の分離
- ・神戸観光、旅行先の観光情報提供
- ・旅行者に図書の貸出サービス

(仮称)新三宮図書館のコンセプト・基本方針

1. コンセプト

「知と情報の 美しいエントランス」

図書館は、人が何か情報を得たいと思った時の探索のエントランスです。新しい図書館は、都心において、さまざまな人々の情報の求めに応じる場所となります。暮らしやビジネス、学習あるいは観光に必要な知識・情報を得るための美しいたたずまいのエントランスが、市民の情報探索を支援し、求める情報につながります。

2. 基本方針と機能

(1) 神戸の玄関口、三宮にふさわしい、美しく快適な読書空間を提供します。

- ・気軽に立ち寄れる雰囲気と、上質な雰囲気を兼ね備えた読書空間をつくれます。
- ・眺望の良い閲覧席など、山が近く、緑豊かな神戸の魅力を体感できる快適な空間をめざします。
- ・静かな読書のみ可能な席、学習席、公衆無線 LAN やパソコン等を使用しワーキングスペースのように使用する席など、多様な利用スタイルを可能にし、若い世代にも支持される環境をつくれます。
- ・一部の座席については申込制、予約制、時間制限などを行い、より多くの方がスムーズに使用できるように、座席予約システムの導入を検討します。

(2) 暮らす人、働く人、学ぶ人に対し、本を通じた新たな発見や出会いを創出します。

①多様な資料の収集

- ・多くの方が訪れる図書館であるため、多様な資料を収集します。市民の暮らしやビジネス、学習に役立つ資料、趣味や楽しみのための資料、子供向けの資料、芸術や文化関係資料、地域に関する資料などを収集し、市民の知的欲求に応えます。
- ・市民が多様な入り口から求める情報にたどりつけるよう、データベースや電子書籍等、デジタルメディアも提供します。デジタルメディアは陳腐化して使用できなくならないよう、技術や提供モデルの趨勢に留意します。
- ・外国人との共生が進む社会において、日本語以外の図書も必要です。神戸に暮らす外国人の母国語の資料や日本で生活を支える資料などが考えられます。デジタルサイネージで多言語の新聞紙を提供するなど、紙媒体に限らない提供方法を考えます。

②本と人を出合わせ、本を通して人と人を出会わせる場の提供

- ・本のある場所のすぐ側で催しを行うからこそ楽しみや理解が深まり、関係する本を手にとって語り合うこともできます。本と人の出会いのために、美しく本を展示するコーナーや、セミナー等の催しを開催する部屋を持ち、講師を招いた連続講座や利用者同士の読書会などを行います。
- ・屋上庭園など共用スペースの活用も検討します。

(3) 暮らす人、訪れる人に、神戸の歴史と文化、居住場所としての魅力を紹介し、神戸の再発見につなげます。

- ・来神する人に対して、神戸の歴史や文化についてのわかりやすい資料を備え、神戸の歴史をごく簡単に説明するミニコーナーを設置します。
- ・神戸に暮らす人には、山と海が近い自然の豊かさ、都会的な便利さなど、この街の魅力を再発見できるよう、関係部局と連携し、神戸PRの動画など本の形に限らない地域情報も使用しながら、効果的に資料を展示します。

(4) 外国人や障害者、高齢者、幼い子供連れの方など多様な人々の図書館利用のアクセシビリティに配慮します。

- ・多様な人々が利用する都心の図書館であるため、図書館の情報やサービスを利用する上でのアクセシビリティの確保が重要です。
- ・多言語資料の提供に際しては、資料だけでなく、多言語での利用案内・サイン等のほか、ホームページなどからの適切な情報発信を検討します。
- ・高齢の方や弱視の方向けには、これまでは大活字本を提供してきましたが、今後は、読書が困難な方も想定した読み上げ機能を持つ電子図書館サービスや配信型のオーディオブックの提供が可能な設備も視野に入れます。
- ・子供連れの方にとって利用しやすい雰囲気が必要です。授乳室等のほか、親子で読み聞かせが楽しめるスペースなどは、一般利用のコーナーとは離して気兼ねなく利用できる配置を検討します。また、バスターミナルビル全体の利用者が使える託児室など、子育て世代が文化や芸術に親しみやすくする施設面での工夫が、ビル全体として必要です。
- ・多くの人の来館が見込まれる新しい三宮図書館では、現在、窓口で行われている貸出手続きや返却手続きを、可能な限り、ICTの技術を使って自動化することで利便性向上を目指します。

(5) 文化芸術情報、地域情報、行政情報など、さまざまな情報を求める利用者を、中央図書館はもとより、博物館、文書館などの専門機関や市政情報室や大学等につなげます。

- ・神戸のハブである都心三宮にあるため、新しい図書館では、アクセスのしやすさから、市の内外からさまざまな情報を求める利用者の来館が見込まれます。司書のガイドにより、中央図書館の100万冊の資料につなぎ、さらには博物館、文書館、専門機関、大学等、都心付近に多く存在する類縁施設や他部局につなぐことで、より広く深い知識・情報の獲得に導きます。
- ・初めて図書館を利用するという方には、図書館利用のガイダンスとして、身近な図書館の利用案内や、中央図書館の専門的なレファレンスを案内します。
- ・他機関とは利用案内、催しもの案内など情報の交換を行い、利用者を求める情報にスムーズにつなげるように、日頃からの関係性構築に努めます。

(6) 文化ホールやバスターミナルに近い環境を生かし、新たな利用者層を掘り起こし、街の賑わい創出や回遊性向上の一助となります。

- ・文化ホールに来て図書館の存在に気付く方、図書館に来て文化ホールの催しに気付く方、中・長距離バスで来神する方や出張などで出かける方の立ち寄り利用など、都心の複合施設ならではの利用が予想されます。施設間の連携で、ホールの催しに関する展示や、神戸からバスで出かける方をターゲットに、行き先関連の資料を展示するなど、さまざまな工夫をしながら、新たな利用者層の掘り起こしに努めます。
- ・複合施設内での利用者の動線については今後充分検討していきます。